



チリ・Entel PCS躍進の要因

🕒 記事のポイント

サマリー

チリ^{☞(脚注)}では、1970年代から各分野で民営化が始まり、通信事業も1988年に民営化を開始している。また、移動通信においても、GSMを南米で最初に導入するなど、チリは同地域で最も開放されたかつ競争的な市場を持つ国といえよう。本報告では、チリの移動通信の歴史を簡単に振り返り、移動通信市場に後発で参入したEntel PCSが、短期間でいかにしてマーケットシェア1位になったかについて焦点を絞りレポートする。

主な登場者 Entel PCS Telefónica Móvil BellSouth Smartcom PCS

キーワード 移動通信 携帯電話 GSM

地域 チリ

執筆者 KDDI総研 調査部 高橋 秀一 (takahash@kddi.com)



☞(脚注)

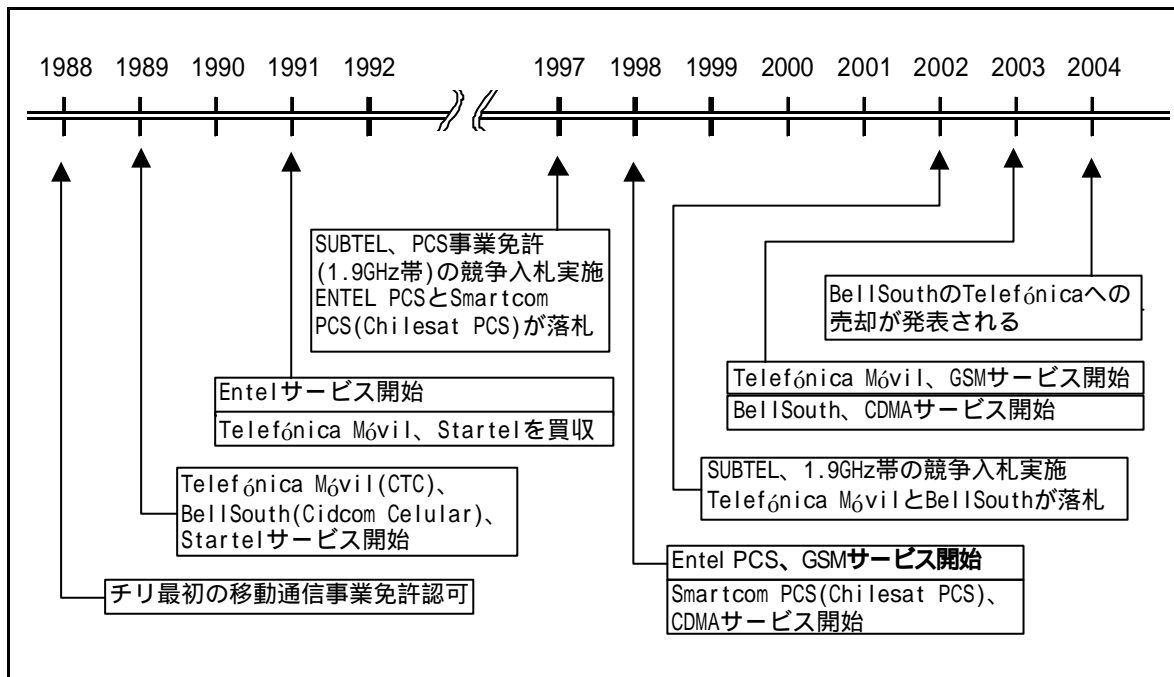
チリ共和国概要(2002年)
人口1,560万人、面積75.6万km²(日本の約2倍) GDP642億米ドル(日本の約62分の1 7兆6,000億円、換算レート1米ドル = 118.54円(2002年12月31日銀行間レート))

1 チリにおける移動通信の始まりから最近の動向まで

1 - 1 移動通信の始まり

はじめにチリの移動通信の流れを簡単に振り返ることとしたい。【図表 1】は 1989年からのチリの移動通信における主な出来事を挙げたものである。

【図表 1】チリの移動通信展開年表



(各種資料よりKDDI総研作成)

チリでは、移動通信事業免許が1988年に認可され、翌1989年にサービスが開始された。通信方式は、アナログ方式のAMPS[☞](脚注)で開始され、その後デジタル方式



☞ (脚注)

Advanced Mobile Phone Serviceの略称。米国で標準化されたアナログ携帯電話システム。

のTDMA^①が追加された。周波数はAMPS、TDMAともに850MHz帯が割り当てられた。

1 - 2 PCS導入

その後、チリの移動通信業界は新規参入・統合などを経て、1997年に1,900MHzのPCS^②事業免許の入札が行なわれた。その結果、Entel PCS^③と、Smartcom PCS^④が落札した。翌1998年にEntel PCSはGSMを、Smartcom PCSはCDMAをそれぞれ開始した。これにより、既存事業者のTelefónica MóvilとBellSouthとあわせ、チリの移動通信事業者は、【図表 2】のとおり、現在と同じ4事業者となった。

チリの現在の移動通信事業者は、全て外資系となっている。Telefónica Móvil、BellSouthは、1990年代初めより外国資本が出資したケースであり、チリ移動通信市場は早くから外資に開かれた市場であった。

2002年には新たに1,900MHz帯の入札が行なわれ、Telefónica MóvilとBellSouthが落札した。この帯域を利用し、Telefónica MóvilはGSMを、BellSouthはCDMAをそれぞれ2003年に開始した。



① (脚注1)

Time Division Multiple Access (時分割多元接続)の略称で、米国で開発されたデジタル移動通信方式。

② (脚注2)

Personal Communications Service。主に1,900MHz帯の周波数を使ったデジタル移動通信サービス。国によって言葉の用法が異なり、例えば韓国におけるPCSは、単に旧来の800MHz帯携帯電話と区別し、周波数帯の異なる1,700MHz帯携帯電話を意味する。





③ (脚注3)

元国営長距離・国際通信事業者Entel ChileのPCS子会社。なお、Entel PCSがGSMを開始する以前も、グループ企業のEntel Telefonía Personalが、AMPSを提供していた。PCS免許取得に伴い、Entel Telefonía Personalは、それまで保有していたアナログの移動通信事業免許を1999年にBellSouthに売却した。

④ (脚注4)

スペインの電力事業者であるENDESA系PCS事業者。なお、PCS免許は、ENDESAがSmartcom PCSを買収する以前に、前身企業でチリ資本であったChilesat PCS (Chilesat Telefonía Personal S.A.)によって取得された。

【図表 2】チリの移動通信事業者概要

				
加入者数およびシェア(2003年)	268万、36.1%	227万、30.6%	130万、17.5%	117万、15.8%
通信方式および周波数帯	GSM 1,900MHz	AMPS 850MHz TDMA 850MHz GSM 1,900MHz	AMPS 850MHz TDMA 850MHz CDMA 1,900MHz	CDMA 1,900MHz
主要株主	Telecom Italia (イタリア)	Telefónica (スペイン)	BellSouth (米国)	ENDESA (スペイン)
同上出資年	1996年	1990年	1991年	2001年
前身企業	Telecom Celular (注)	CTC	Cidcom Celular	Chilesat PCS
同上営業開始年	1991年	1989年	1989年	1998年
グループ企業および業容 (備考)	Entel Chile ・固定通信(地域・長距離・国際) ・ISP 元国営長距離・国際通信事業者	Telefónica CTC Chile ・固定通信(地域・長距離・国際) ・ISP 元国営地域通信事業者	BellSouth ・固定通信(長距離・国際) ・ISP 固定、移動通信とも1社で提供	- - - -

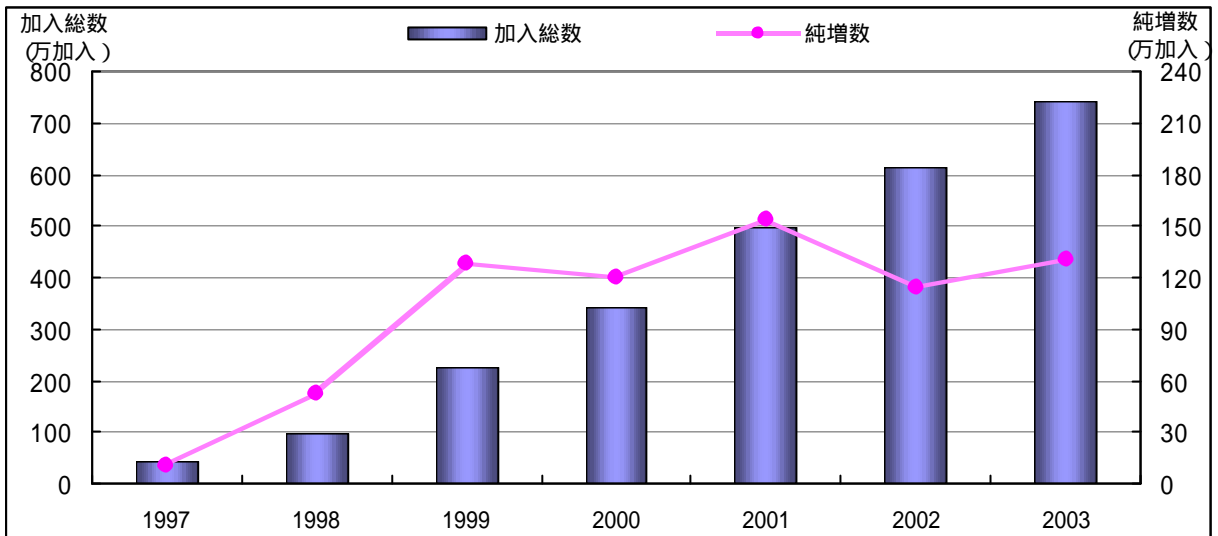
(各種資料よりKDDI総研作成)

(表注) Telecom Celularは、Entelグループ。

1 - 3 チリの移動通信加入数推移

過去の純増推移を振り返ると、【図表 3】のとおり、Entel PCS、Smartcom PCSの両社が参入した1998年を境に特徴ある推移を見せている。1997年の加入数は43万であり、移動通信サービスが開始された1989年から1997年までの9年間で、年平均5万加入にも満たないペースで純増が推移したことになる。一方、1998年以降は年平均100万加入を超えるペースで増加している。Entel PCS、Smartcom PCSが参入したことにより、競争が促進され加入者が増えていったものと思われる。

【図表 3】チリの移動通信加入数推移



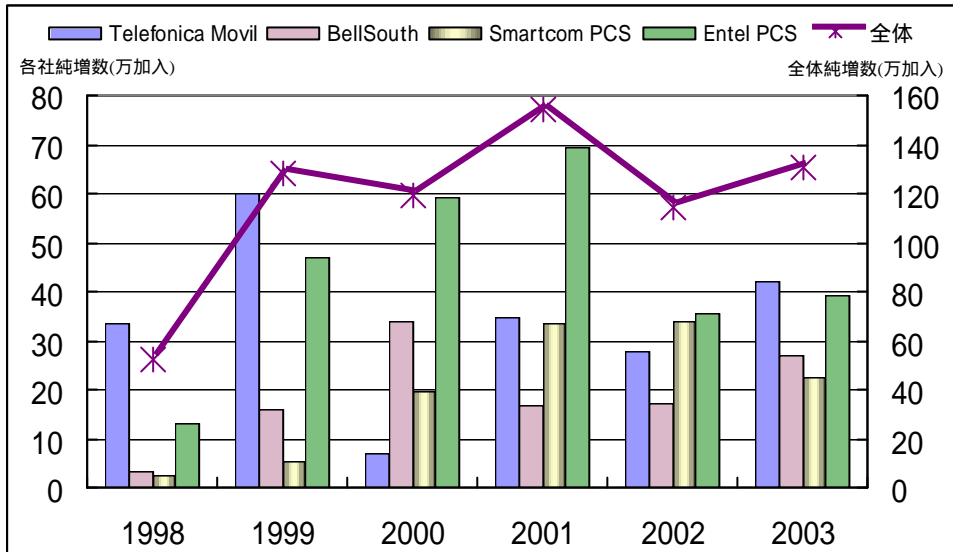
(SUBTEL資料他よりKDDI総研作成)

1 - 4 Entel PCSの躍進

既述のとおり1998年にサービスを開始したEntel PCSは、【図表 4】のとおり、同年の純増数13万がいきなり4社中2位になったのを皮切りに、1999年の47万を経て2000年には59万で首位に立った。その後も順調に加入者を獲得し、加入総数で1998年の19万から2003年の268万と、わずか5年間で14倍と急増している。

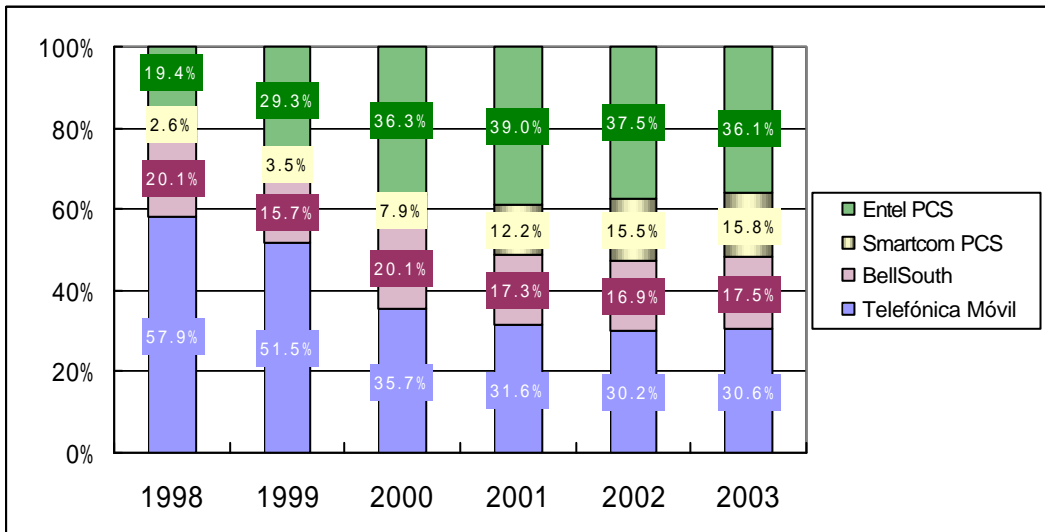
マーケットシェアでは、1998年の時点では、【図表 5】のとおり、Telefónica Móvilが60%近いシェアを握っていた。しかしながらEntel PCS が急成長を遂げ、純増で同社が首位になった2000年には、Entel PCSが36.3%、Telefónica Móvilが35.7%と、わずかではあるがEntel PCSがマーケットシェアでも首位に立ち、その後も首位を維持している。

【図表 4】チリの移動通信純増数推移



(各種資料よりKDDI総研作成)

【図表 5】チリの移動通信市場における事業者シェア推移



(各種資料よりKDDI総研作成)

1 - 5 チリの移動通信事業の再編および3Gの動向

2004年3月に、BellSouthの中南米における移動通信事業のTelefónica への売却が発表された^④(参照)。これに伴い、チリにおけるBellSouthの移動通信事業もTelefónica Móvilへ統合されるものと予想される。しかしながら既述のとおり、Telefónica MóvilはGSMを、BellSouthはCDMAをそれぞれ提供しているため、事業統合には様々な困難が予測される。本統合に伴い、1998年の新規事業者参入以来、純増数でEntel PCSの後塵を拝し、マーケットシェアを落とし続ける傾向にあったTelefónica Móvil(【図表 4】、【図表 5】参照)が、今後どのように巻き返すのかも注目される。

一方、3Gに関しては、2000年9月にSUBTEL^⑤(脚注)が、1,710MHzから1,850MHzおよび2,110MHzから2,170MHzの周波数帯を3G用に割り当てることを発表した。これらの帯域は、入札を経て4事業者に提供されると予想されているが、入札条件など詳細は現時点では発表されていない。

2 Entel PCSがシェア1位に転じた要因

なぜEntel PCSは新規参入後短期間のうちに、チリの移動通信市場で加入者ベースで1位になったのであろうか。以下、考えられる4つの要因を挙げる。

GSMを採用したこと

1990年代後半、南米の通信方式はTDMAが主体であった。しかしながら、移動通信事業者やメーカー関係者の間で、音声通信用システムといえるTDMAの限界も感じられていたようである。このようなTDMAに対し、GSMは音声のみならずデータ通信にも利用可能であり、ヨーロッパの進んだシステムという認識があった。そのような中、Entel PCSは、上記のほか、「先端技術」「国際ローミング」「ヨーロッパの技術」といった特徴のあるGSMを採用した。

一方、1998年にEntel PCSがGSMでチリの移動通信市場に参入した当時、競争事業者のTelefónica MóvilとBellSouthは、通信方式にAMPS、TDMAを使用していた。両社が新しい通信方式(GSM、CDMA)を導入するのは2003年のことであり、Entel PCSより5年も遅れた。

このようにEntel PCSがGSMを採用したことが、同社の急成長の最大の要因であり、



^④(参照)

KDDI総研R&A2004年4月号「BellSouth、中南米携帯電話事業をTelefónicaに売却」
(青沼)

^⑤(脚注)

Subsecretaría de Telecomunicaciones。チリの電気通信事業規制監督機関。

また競争事業者が旧方式を使い続けたことも、同社に幸いしたといえよう。

“ Firsts ” (一番手) というイメージを作ったこと

Entel PCS は、WAP、GPRS^①、MMS^② など多くのサービスを競合他社に先行して提供した。また、カラー液晶ディスプレイ搭載端末を最初に販売し、首都サンチアゴの地下鉄での通話、オンラインでの料金プラン申込などを最初に可能とした。このように、最初に行なう、“ Firsts ” (一番手) というイメージを利用者の間に醸成し、それが同社のブランドを高めた。

ターゲット毎に訴求方法を分けたこと

Entel PCSはビジネスユースと若者の2つにターゲットを絞った。そしてターゲット別に訴求を行なっていった。ビジネスユース向けには「優れた技術」、「国際ローミング」、「端末の種類の豊富さ」などを訴求ポイントとした。一方、若年層にはプリペイドを前面に押し出し、低価格端末や多くの魅力的なサービス料金を提供することにより訴求を行なった。このように、ターゲットを明確化し、それぞれ訴求方法を分けることにより、Entel PCSは加入者を増やしていった。

チリ市場の特徴が後押ししたこと

チリ市場は、新しい技術やサービスを受け入れやすいという特色を持っている。Entel PCSがGSMを南米で初めて導入したことのほかに、Telefónica Móvilが2003年



① (脚注1)

General Packet Radio Service。パケット交換による高速データ通信を可能とするサービス。2GにあたるGSMと3Gの間の過渡的なサービスとしての位置づけから、「2.5G」とも呼ばれる技術のひとつ。通信速度は最大115kbpsと従来のGSM(最大9.6kbps)よりもはるかに高速となる。GPRSは、現行のGSMを改修してパケット通信を実現させるもので、少ない設備投資でモバイルデータ通信の普及を促進させる狙いがある。

② (脚注2)

Multimedia Messaging Service。携帯電話で、文字メッセージに音声・画像・映像などを添付して送受信できるサービス。

に南米で最初にEDGE^㉞(脚注)を導入している。南米の他国では、技術的には可能であるにもかかわらず、市場に受け入れられるかわからないという判断から、新技術・サービスの導入を見合わせる例もあった。チリ市場が新しいものを受け入れるという特徴も、Entel PCSの新しいサービスを次々と受け入れ、その急成長を後押しした一因といえる。

📖 執筆者コメント

世界の通信市場では、元国営事業者もしくは既存事業者が依然としてマーケットシェアを握っている場合が多い。そのような中、1998年に後発で参入したEntel PCSが、短期間で首位に立ったチリの移動通信市場は注目に値する。Entel PCSは、当時ではGSMという他社と比べ優れた通信方式と常に一步先を行くサービスで成長していった。

日本に目を移すと、iモードなどのサービスや新機能端末を最初に提供してきたように、NTTドコモが「一番手」というイメージを持ってきた。このイメージも最近では変わりつつあるが、ライバル各社は、Entel PCSの「最初に提供する企業」、「一足先を行く企業」といった「一番手」のイメージを醸成することが、シェア獲得につながる一手になると思われる。

📖 出典・参考文献

日経BP社 通信ネットワーク辞典03～04年版
Espicom Business Intelligence 「Chile (2003.8.21)」
Law Business Research Ltd 「Telecoms 2003」
Baskerville 「Global Mobile (2004.4.7他)」
SUBTELのホームページ (<http://www.subtel.cl/>)
Entel PCSのホームページ (<http://www.entelpcs.cl/>)
Telefónica Móvilのホームページ (<http://www.telefonicomovil.cl/>)
BellSouth (チリ) のホームページ (<http://www.bellsouth.cl/>)
世界銀行のホームページ (<http://www.worldbank.org/>)



㉞ (脚注)

Enhanced Data Rates for GSM Evolution。最高473kbpsまでの高速データ通信を実現する通信技術。GPRSと同様、すでに広く普及しているGSMをベースとした方式であるため、既存の通信設備を有効利用することができる。